

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2018-11674

(P2018-11674A)

(43) 公開日 平成30年1月25日(2018.1.25)

| | | |
|-------------------------|---------------|-------------|
| (51) Int.Cl. | F I | テーマコード (参考) |
| A 4 5 D 26/00 (2006.01) | A 4 5 D 26/00 | Z |
| B 2 6 B 21/10 (2006.01) | B 2 6 B 21/10 | |

審査請求 有 請求項の数 6 O L (全 23 頁)

| | | | |
|-----------|------------------------------|----------|--|
| (21) 出願番号 | 特願2016-141919 (P2016-141919) | (71) 出願人 | 516216601 官入 圭介 千葉県鎌ケ谷市南初富1-9-38 |
| (22) 出願日 | 平成28年7月19日 (2016.7.19) | (74) 代理人 | 100144048 弁理士 坂本 智弘 |
| | | (74) 代理人 | 100204881 弁理士 土井 伸次 |
| | | (72) 発明者 | 官入 圭介 千葉県鎌ケ谷市南初富1-9-38 |
| | | (72) 発明者 | 官入 恵美子 千葉県鎌ケ谷市南初富1-9-38 |

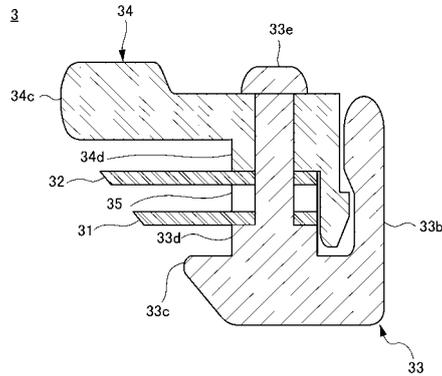
(54) 【発明の名称】 鼻毛処理器

(57) 【要約】

【課題】鼻毛を簡単に処理できる鼻毛処理器を提供すること。

【解決手段】柄部と刃部とを備える鼻毛処理器であって、柄部は、刃部が軸線の一端側に取付けられ、刃部は、軸線を含む平面と平行な刃物面を有し、所定間隔で平行に設けられた第1の刃物31及び第2の刃物32と、第1の刃物31及び第2の刃物32を保持する保持部33, 34と、を有し、保持部33, 34は、第1の刃物31及び第2の刃物32を挟んだ両側に保護ガイド33c, 34cが形成されること。

【選択図】 図3



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

柄部と刃部とを備える鼻毛処理器であって、
 前記柄部は、前記刃部が軸線の一端側に取付けられ、
 前記刃部は、前記軸線を含む平面と平行な刃物面を有し、所定間隔で平行に設けられた
 第 1 の刃物及び第 2 の刃物と、
 前記第 1 の刃物及び前記第 2 の刃物を保持する保持部と、を有し、
 前記保持部は、前記第 1 の刃物及び前記第 2 の刃物を挟んだ両側に保護ガイドが形成さ
 れる
 ことを特徴とする鼻毛処理器。

10

【請求項 2】

前記刃物面と直交する方向から見た場合、前記第 1 の刃物の刃先は、前記第 2 の刃物の
 刃先とは異なる位置である
 ことを特徴とする請求項 1 に記載の鼻毛処理器。

【請求項 3】

前記刃部は、前記第 1 の刃物及び前記第 2 の刃物の組を、二組有するとともに、各組は
 前記軸線を含む前記平面に関して対称に設けられる
 ことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の鼻毛処理器。

【請求項 4】

前記刃部は、前記第 1 の刃物及び前記第 2 の刃物の組を、二組有するとともに、各組は
 前記軸線を含む前記平面と直交する平面に関して対称に設けられる
 ことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の鼻毛処理器。

20

【請求項 5】

前記刃部は、前記軸線の方の前記一端側の先端に穴部を有し、
 前記穴部は、第 3 の刃物を有する
 ことを特徴とする請求項 1 から 4 までのいずれか 1 項に記載の鼻毛処理器。

【請求項 6】

前記刃部は、前記軸線と直交する軸線を有する枢動軸に対して枢動可能に前記柄部に取
 付けられる
 ことを特徴とする請求項 1 から 5 までのいずれか 1 項に記載の鼻毛処理器。

30

【請求項 7】

前記枢動軸は、前記柄部の一端側の側面又は端面に設けられる
 ことを特徴とする請求項 6 に記載の鼻毛処理器。

【請求項 8】

枢動する前記刃部は、係止具により前記柄部に対して所定角度に係止される
 ことを特徴とする請求項 6 又は 7 に記載の鼻毛処理器。

【請求項 9】

前記刃部は、前記第 1 の刃物及び前記第 2 の刃物を有する二枚刃以上である
 ことを特徴とする請求項 1 から 8 までのいずれか 1 項に記載の鼻毛処理器。

40

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、鼻毛処理器に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、伸びた鼻毛を切断したり除去したりするものとして、鼻毛抜き、鼻毛用ハサミ、
 鼻毛用カミソリ及び回転式鼻毛切りなどが知られている（特許文献 1 及び 2 参照）。

【0003】

上記のうち、鼻毛を 2 つの刃で挟んで切る、鼻毛切りハサミや回転式鼻毛切りは、鼻毛
 を挟んで切断するため、鼻腔（鼻の穴）内に鼻毛屑が残り、また、一方の刃の厚み分だけ

50

の長さの鼻毛が根元から切り残される。その後、鼻腔内に残された鼻毛屑は、使用者がティッシュで何度も鼻をかんだり、ほじったりして、取り除かれている。

【0004】

一方、特許文献1には、刃を安全ガイドの内側に埋め込むとともに、刃と安全ガイドとの間に間隙を設けた鼻毛用カミソリが記載されており、段落0009には、剃った鼻毛が間隙から刃の裏側に取り込まれると記載されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【特許文献1】特開2000-051545号公報

【特許文献2】登録実用新案第3093562号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

しかしながら、特許文献1の段落0011には、表面の刃に、鼻毛が当たるように回転させると記載されているから、刃は回転させる方向の前方に位置することになる。すると、刃で剃られた鼻毛が、後方に位置する間隙から刃の裏側に回り込むようなことは起きず、実際には剃られた鼻毛の多くは、鼻腔内に残っているといえる。

【0007】

そこで、本発明は、上記問題点に鑑みなされたものであり、鼻毛を簡単に処理できる鼻毛処理器を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0008】

(1)本発明に係る一つの態様は、柄部と刃部とを備える鼻毛処理器であって、前記柄部は、前記刃部が前記軸線の一端側に取付けられ、前記刃部は、前記軸線を含む平面と平行な刃物面を有し、所定間隔で平行に設けられた第1の刃物及び第2の刃物と、前記第1の刃物及び前記第2の刃物を保持する保持部と、を有し、前記保持部は、前記第1の刃物及び前記第2の刃物を挟んだ両側に保護ガイドが形成されるものである。

【0009】

(2)上記(1)の態様において、前記刃物面と直交する方向から見た場合、前記第1の刃物の刃先は、前記第2の刃物の刃先とは異なる位置であってもよい。

【0010】

(3)上記(1)又は(2)の態様において、前記刃部は、前記第1の刃物及び前記第2の刃物の組を、二組有するとともに、各組は前記軸線を含む前記平面に関して対称に設けられてもよい。

【0011】

(4)上記(1)又は(2)の態様において、前記刃部は、前記第1の刃物及び前記第2の刃物の組を、二組有するとともに、各組は前記軸線を含む前記平面と直交する平面に関して対称に設けられてもよい。

【0012】

(5)上記(1)から(4)までのいずれか一つの態様において、前記刃部は、前記軸線の方向の前記一端側の先端に穴部を有し、前記穴部は、第3の刃物を有してもよい。

【0013】

(6)上記(1)から(5)までのいずれか一つの態様において、前記刃部は、前記軸線と直交する軸に対して枢動可能に前記柄部に取付けられてもよい。

【0014】

(7)上記(6)の態様において、前記枢動軸は、前記柄部の一端側の側面又は端面に設けられてもよい。

【0015】

(8)上記(6)又は(7)の態様において、枢動する前記刃部は、係止具により前記柄

10

20

30

40

50

部に対して所定角度に係止されてもよい。

【0016】

(9) 上記(1)から(8)までのいずれか一つの態様において、前記刃部は、前記第1の刃物及び前記第2の刃物を有する二枚刃以上であってもよい。

【発明の効果】

【0017】

本発明によれば、簡単に鼻毛を処理できる鼻毛処理器を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【0018】

【図1】本発明の実施形態1に係る鼻毛処理器1の使用状況を示す、(a)側面図、(b)下面図、である。 10

【図2】本発明の実施形態1に係る鼻毛処理器1を示す概略図である。

【図3】刃部3を図2のA-A線で切断した断面図である。

【図4】刃部3を構成する、(a)第1のホルダ33、(b)第1の刃物31、(c)スペーサ35、(d)第2の刃物32、(e)第2のホルダ34、を示す正面図及び側面図である。

【図5】図3の刃部3を更に拡大した拡大断面図である。

【図6】本発明の実施形態2に係る鼻毛処理器100を示す概略図である。

【図7】刃部130を図6のB-B線で切断した断面図である。

【図8】刃部130を構成する、(a)第1のホルダ133、(b)第1の刃物31、(c)スペーサ135、(d)第2の刃物32、(e)中間ホルダ136、(f)第2の刃物32、(g)スペーサ135、(h)第1の刃物31、(i)第2のホルダ134、を示す正面図及び側面図である。 20

【図9】第1のホルダ133を示す詳細説明図である。

【図10】第2のホルダ134を示す詳細説明図である。

【図11A】刃部130の組立工程を示す説明図である。

【図11B】刃部130の刃先付近を示す拡大図である。

【図12】本発明の実施形態3に係る鼻毛処理器200を示す概略図である。

【図13】刃部230を図12のD-D線で切断した断面図である。

【図14】刃部230を構成する、(a)第1のホルダ233、(b)第2の刃物232、(c)スペーサ235、(d)第1の刃物231、(e)第2のホルダ234、を示す正面図及び側面図である。 30

【図15】実施形態2又は3の変形例の使用状況を示す側面図である。

【図16】変形例の穴部340を示す、(a)上面図、(b)E-E線で切断した断面図、である。

【図17】本発明の実施形態4に係る鼻毛処理器400を示す概略図である。

【図18】刃部430を図17のF-F線で切断した断面図である。

【図19】刃部430を構成する、(a)第1のホルダ433、(b)第1の刃物31、(c)スペーサ35、(d)第2の刃物32、(e)第2のホルダ434、を示す正面図及び側面図である。 40

【図20】鼻毛処理器400の、(a)第1の状態、(b)第2の状態、を示す概略図である。

【図21】本発明の実施形態5に係る鼻毛処理器500を示す概略図である。

【図22】刃部530の可動範囲を示す説明図である。

【図23】本発明の実施形態6に係る鼻毛処理器600を示す概略図である。

【発明を実施するための形態】

【0019】

以下、本発明の一実施形態について、図面を参照しながら詳細に説明する。なお、実施形態の説明の全体を通じて同じ要素には同じ符号を付して説明する。

【0020】

本発明の実施形態 1 に係る鼻毛処理器 1 について説明する。図 1 は、本発明の実施形態 1 に係る鼻毛処理器 1 の使用状況を示す、(a) 側面図、(b) 下面図、であり、図 2 は、本発明の実施形態 1 に係る鼻毛処理器 1 を示す概略図である。

【 0 0 2 1 】

図 1 (a) に示される鼻毛処理器 1 は、使用者の鼻腔に挿入し、回転 (鼻腔に沿って移動) させることで (図 1 (b) 参照)、鼻毛を処理するものである。鼻毛処理器 1 は、図 2 に示されるように、柄部 2 と刃部 3 とを備える。

【 0 0 2 2 】

柄部 2 は、鼻毛処理器 1 を鼻腔に挿入する際に、使用者の指で (摘み) 持たれるものである (図 1 (a) 参照)。柄部 2 は、棒状のものであり、プラスチック樹脂で形成されている。この柄部 2 には、後述する刃部 3 が、溶着や係合・嵌合により一体化され、軸線 C L の一端側に取付けられる。

【 0 0 2 3 】

柄部 2 は、断面視で 3 mm × 5 mm 程度の矩形であるが、直径 3 mm から 6 mm 程度の円に内接する多角形であってもよく、同程度の楕円形であってもよい。柄部 2 の長さは、30 mm から 50 mm 程度である。

【 0 0 2 4 】

つぎに、刃部 3 について説明する。図 3 は、刃部 3 を図 2 の A - A 線で切断した断面図であり、図 4 は、刃部 3 を構成する、(a) 第 1 のホルダ 3 3、(b) 第 1 の刃物 3 1、(c) スペース 3 5、(d) 第 2 の刃物 3 2、(e) 第 2 のホルダ 3 4、を示す正面図及び側面図である。

【 0 0 2 5 】

図 3 に示される刃部 3 は、第 1 の刃物 3 1 及び第 2 の刃物 3 2 とを有する。これら第 1 の刃物 3 1 及び第 2 の刃物 3 2 は、図 4 (b)、(d) に示されるように、略矩形の刃物面を有するものであり、ステンレス鋼又は特殊工具鋼で形成されており、先端が研磨処理されている。第 1 の刃物 3 1 及び第 2 の刃物 3 2 の厚みは、0.1 mm から 0.3 mm 程度である。

【 0 0 2 6 】

そして、第 1 の刃物 3 1 は、幅が 10 mm から 40 mm 程度で、刃元から刃先までの長さが 5 mm から 6 mm 程度である。第 2 の刃物 3 2 は、幅が 10 mm から 40 mm 程度で、刃元から刃先までの長さが 5 mm から 8 mm 程度である。また、第 1 の刃物 3 1 及び第 2 の刃物 3 2 には、後述する連結ピン 3 3 e が挿通される穴 3 1 a 及び穴 3 2 a がそれぞれ形成されている。

【 0 0 2 7 】

これらの第 1 の刃物 3 1 及び第 2 の刃物 3 2 は、刃物面が軸線 C L を含む平面と略平行となるように、また、後述するスペース 3 5 により所定間隔で平行に設けられる。

【 0 0 2 8 】

つづいて、第 1 の刃物 3 1 及び第 2 の刃物 3 2 を保持する構成について説明する。

刃部 3 は、第 1 の刃物 3 1 及び第 2 の刃物 3 2 を保持する保持部として機能する、第 1 のホルダ 3 3 及び第 2 のホルダ 3 4 を有する。第 1 のホルダ 3 3 及び第 2 のホルダ 3 4 は、プラスチック樹脂で形成されている。

【 0 0 2 9 】

第 1 のホルダ 3 3 は、図 4 (a) に示されるように、底板 3 3 a と、この底板 3 3 a に立設された断面視 L 字状の側壁 3 3 b とで形成されている。一方の側壁 3 3 b には、保護ガイド 3 3 c が端部に形成されている。他方の側壁 3 3 b には、係合部 3 3 f が端部に形成されている。

【 0 0 3 0 】

一方の側壁 3 3 b は、内側面に台座 3 3 d を有する。台座 3 3 d は、第 1 のホルダ 3 3 の内側面と第 1 の刃物 3 1 とを所定の間隔に設定するものである。さらに、この台座 3 3 d には、連結ピン 3 3 e が立設されている。

10

20

30

40

50

【0031】

また、第2のホルダ34は、図4(e)に示されるように、天板34aと、この天板34aに立設された断面視L字状の側壁34bとで形成されている。一方の側壁34bには、保護ガイド34cが端部に形成されている。他方の側壁34bには、第1のホルダ33の係合部33fに係合する被係合部34fが端部に形成されている。

【0032】

一方の側壁34bは、内側面に台座34dを有する。台座34dは、第2のホルダ34の内側面と第2の刃物32とを所定の間隔に設定するものである。さらに、この台座34dには、連結ピン33eが挿通される穴34eが形成されている。

【0033】

最後に、スペーサ35は、図4(c)に示されるように、第1の刃物31と第2の刃物32との間に挟持される板状のものであり、連結ピン33eが挿通される穴35aが形成されている。スペーサ35は、金属又はプラスチック樹脂で形成されている。このスペーサ35の厚みは、0.2mmから0.5mm程度である。なお、スペーサ35は、円形ワッシャのようなものであってもよい。

【0034】

以上の各構成により、刃部3は、第1のホルダ33、第1の刃物31、スペーサ35、第2の刃物32、第2のホルダ34が、この順に組み立てられる(図3参照)。

ここで、第1の刃物31及び第2の刃物32の刃先、第1のホルダ33及び第2のホルダ34の保護ガイド33c、34cの位置関係について説明する。図5は、図3の刃部3を更に拡大した拡大断面図である。

【0035】

第1の刃物31及び第2の刃物32は、所定間隔で略平行に設けられているが、刃物面と直交する方向から見た場合、第1の刃物31の刃先は、第2の刃物32の刃先とは異なる位置である。つまり、第2の刃物32の刃物面(すくい面)に対して、所定の角度で傾斜した基準線L上に、第1の刃物31及び第2の刃物32の刃先が位置している。この角度は、第1の刃物31及び第2の刃物32の厚み、スペーサ35の厚み、台座33d、34dの高さにもよるが、通常5°から55°の範囲とされる。

【0036】

刃部3は、角度を小さくすることで、全体として厚み方向を薄くすることができ、逆に、角度を大きくすることで、全体として長手方向を小さくすることができる。

【0037】

さらに、この基準線L上には、第1のホルダ33及び第2のホルダ34の保護ガイド33c、34cも位置している。このように、保護ガイド33c、34cと、第1の刃物31及び第2の刃物32の刃先とが、基準線L上に位置することにより、第1の刃物31及び第2の刃物32が、鼻腔内の粘膜に食い込むのを防止している。

【0038】

しかしながら、第1の刃物31及び第2の刃物32の刃先は、基準線Lと平行に1.0mm程度基準線Lから突出されてもよい。この状態であれば、鼻毛の深剃りを優先することができる。逆に、第1の刃物31及び第2の刃物32の刃先は、基準線Lと平行に1.0mm程度基準線Lから引き込ませてもよい。この状態であれば、鼻毛の処理具合よりも、粘膜の傷付き防止を優先することができる。

【0039】

そして、鼻毛処理器1で鼻毛を処理する場合、軸線CLの刃部3側から見て時計回りに鼻腔内で回転される。つまり、第2の刃物32が、回転方向の前方側となり、第1の刃物31が、第2の刃物32の後方側となる。

【0040】

以上のとおり、本発明の実施形態1に係る鼻毛処理器1は、柄部2と刃部3を備えるものであって、柄部2は、刃部3が軸線CLの一端側に取付けられ、刃部3は、軸線CLを含む平面と平行な刃物面を有し、所定間隔で平行に設けられた第1の刃物31及び第2の

10

20

30

40

50

刃物 3 2 と、第 1 の刃物 3 1 及び第 2 の刃物 3 2 を保持する保持部 3 3 , 3 4 (第 1 のホルダ 3 3 , 第 2 のホルダ 3 4) と、を有し、保持部 3 3 , 3 4 は、第 1 の刃物 3 1 及び第 2 の刃物 3 2 を挟んだ両側に保護ガイド 3 3 c , 3 4 c が形成されるものである。これにより、鼻毛処理器 1 を鼻腔に挿入し、第 1 の刃物 3 1 及び第 2 の刃物 3 2 を鼻毛の生えた粘膜に当てながら、鼻腔に沿わせて移動させるだけで、すなわち、鼻腔内で回転させるだけで、鼻毛を根元から簡単に処理する(剃る)ことができる。また、鼻毛処理器 1 を鼻腔に挿入し回転させるため、鼻毛の位置を確認する必要がなく、剃り残しもほぼない。

【 0 0 4 1 】

また、第 1 の刃物 3 1 及び第 2 の刃物 3 2 の両外側に保護ガイド 3 3 c , 3 4 c が形成されているため、第 1 の刃物 3 1 及び第 2 の刃物 3 2 を粘膜に押し当てても、食い込むことがないから、粘膜を傷つけることがないし、痛みが与えられることもない。また、鼻毛を抜かないため、毛穴に菌が侵入することもない。

10

【 0 0 4 2 】

さらに、剃られた鼻毛は、第 1 の刃物 3 1 と第 2 の刃物 3 2 との間や、第 1 の刃物 3 1 及び第 2 の刃物 3 2 と保持部 3 3 , 3 4 との間に取り込まれるため、剃られた鼻毛屑が鼻腔内に残ることが少ない。また、鼻毛を挟んで切断しないため、鼻毛の根元付近が残ることがなく、鼻毛屑が残ったとしてもこれらに絡まることもない。そのため、鼻腔内に残された鼻毛屑があったとしても、ティッシュで 2 , 3 回鼻をかんだり、ほじったりすることで、取り除くことができる。くわえて、柄部 2 を備えるため、親指と人差し指(更に中指)などで摘んで指で操作し易くなっている。

20

【 0 0 4 3 】

ところで、鼻腔の形状や鼻毛の生え方によって、反時計回りに回転される方が、好ましいこともある。この場合、鼻毛処理器 1 は、軸線 C L を含む面に対して左右対称なものとすればよい。

【 0 0 4 4 】

つぎに、本発明の実施形態 2 に係る鼻毛処理器 1 0 0 について説明する。図 6 は、本発明の実施形態 2 に係る鼻毛処理器 1 0 0 を示す概略図である。

この鼻毛処理器 1 0 0 は、刃部 1 3 0 が、第 1 の刃物 3 1 及び第 2 の刃物 3 2 を二組有する点で、実施形態 1 のものと異なっている。柄部 2 については、実施形態 1 のものと同様であるから、説明を省略する。

30

【 0 0 4 5 】

そこで、刃部 1 3 0 について説明する。図 7 は、刃部 1 3 0 を図 6 の B - B 線で切断した断面図であり、図 8 は、刃部 1 3 0 を構成する、(a) 第 1 のホルダ 1 3 3 、(b) 第 1 の刃物 3 1 、(c) スペーサ 1 3 5 、(d) 第 2 の刃物 3 2 、(e) 中間ホルダ 1 3 6 、(f) 第 2 の刃物 3 2 、(g) スペーサ 1 3 5 、(h) 第 1 の刃物 3 1 、(i) 第 2 のホルダ 1 3 4 、を示す正面図及び側面図である。また、図 9 は、第 1 のホルダ 1 3 3 を示す詳細説明図であり、図 1 0 は、第 2 のホルダ 1 3 4 を示す詳細説明図である。なお、図 9 及び 1 0 において、4 方向からの視点を理解し易くするため、側方に仮想線を描いている。また、図 9 (e) は、C - C で切断した断面図である。

【 0 0 4 6 】

図 7 に示される刃部 1 3 0 は、第 1 の刃物 3 1 及び第 2 の刃物 3 2 とを保持する保持部として機能する、第 1 のホルダ 1 3 3 、第 2 のホルダ 1 3 4 及び中間ホルダ 1 3 6 を有する。この刃部 1 3 0 は、後述する中間ホルダ 1 3 6 の両側に、第 1 の刃物 3 1 及び第 2 の刃物 3 2 の組がそれぞれ平行に設けられる。

40

【 0 0 4 7 】

第 1 の刃物 3 1 及び第 2 の刃物 3 2 の構成については、後述する連結ピン 1 3 4 e が挿通される点以外は実施形態 1 のものと同様であるから、説明を省略する(図 8 (b) , (d) , (f) , (h) 参照)。

【 0 0 4 8 】

第 1 のホルダ 1 3 3 は、図 8 (a) 及び図 9 (a) - (e) に示されるように、底板 1

50

33aと、この底板133aに対向する天板133gと、底板133aと天板133gとを連結する側壁133bとで形成されている。側壁133bは、保護ガイド133cが一方の端部に形成されている。

【0049】

この側壁133bは、内側面に台座133dを有する。台座133dは、第1のホルダ133の内側面と第1の刃物31とを所定の間隔に設定するものである。さらに、この台座133dには、連結ピン134eが挿通される穴133eが形成されている。

【0050】

この側壁133bは、穴133eよりも他方側に支持穴133fを有する。この支持穴133fには、後述する第2のホルダ134の係止爪134fが挿入される。

10

【0051】

底板133a及び天板133gは、側壁133bに対向する側に、仮受台133hがそれぞれ突設されている。

【0052】

第2のホルダ134は、図8(i)及び図10(a)-(d)に示されるように、断面視L字状の側壁134bで形成されている。一方の側壁134bは、保護ガイド134cが端部に形成されている。この一方の側壁134bは、仮受台133hが通過可能な切欠134hが形成されている。

【0053】

この一方の側壁134bは、内側面に台座134dを有する。台座134dは、第2のホルダ134の内側面と第1の刃物31とを所定の間隔に設定するものである。さらに、この台座134dには、連結ピン134eが立設されている。

20

【0054】

また、他方の側壁134bは、係止爪134fが端部に形成されている。

【0055】

スペーサ135は、図8(c)又は(g)に示されるように、第1の刃物31と第2の刃物32との間に挟持される板状のものである。スペーサ135は、略板状に形成されており、両端に脚135bが突設されており、連結ピン134eが挿通される穴135aが形成されている。このスペーサ135は、金属又はプラスチック樹脂で形成されている。

【0056】

30

中間ホルダ136は、図8(e)に示されるように、略板状に形成されている。中間ホルダ136は、保護ガイド136cが端部に形成されている。中間ホルダ136は、両側の主面にそれぞれ台座136dを有する。台座136dは、中間ホルダ136とその両側に設けられる第2の刃物32とを所定の間隔に設定するものである。さらに、この台座136dには、連結ピン134eと対向する位置に、連結ピン134eが挿通される穴136eが形成されている。

【0057】

刃部130の組立方法について説明する。図11Aは、刃部130の組立工程を示す説明図であり、図11Bは、刃部130の刃先付近を示す拡大図である。

まず、連結ピン134eと略同形状の仮固定用の連結ピン140を、第1の刃物31の穴31a、スペーサ135の穴135a、第2の刃物32の穴32a、中間ホルダ136の穴136a、第2の刃物32の穴32a、スペーサ135の穴135a、第1の刃物31の穴31aに、この順で挿通し、仮組立体とする(図11A(a)参照)。

40

【0058】

つぎに、この仮組立体を、側壁133bと略平行な方向から第1のホルダ133に装填する(図11A(b)参照)。このとき、仮組立体を案内する装填用ガイドを、側壁133bの付近に設けるとよい。ついで、仮固定用の連結ピン140を引き抜く。

【0059】

そして、第2のホルダ134を、側壁133bの内面に対向する側から、第1のホルダ133に装着する(図11A(c)参照)。第2のホルダ134の装着が完了すると、第

50

1のホルダ133の支持穴133fに第2のホルダ134の係止爪134fが嵌入され、また、第1のホルダ133の穴133eから第2のホルダ134の連結ピン134eが突出する状態となる。

【0060】

最後に、連結ピン134eの突出した先端を加熱変形させ、第1のホルダ133と第2のホルダ134とを固着する(図11A(d)参照)。

【0061】

このようにして、刃部130は、第1のホルダ133、第1の刃物31、スペーサ135、第2の刃物32、中間ホルダ136、第2の刃物32、スペーサ135、第1の刃物31、第2のホルダ134の順に組み立てられる(図7及び図11B参照)。つまり、刃部130は、第1の刃物31及び第2の刃物32の組を二組有し、各組が、軸線CLを含む平面(あるいは、中間ホルダ136)に関して対称に設けられる。なお、刃部130は、左右幅が8mm程度であり、高さが8mm程度であるから(図7参照)、成人の鼻腔に挿入可能な大きさとなっている。

10

【0062】

このとき、中間ホルダ136の左側の第1の刃物31及び第2の刃物32の組が、軸線CLの刃部130側から見て反時計回り用となり、中間ホルダ136の右側の第1の刃物31及び第2の刃物32の組が、軸線CLの刃部130側から見て時計回り用となる。そして、時計回り用の第1の刃物31及び第2の刃物32の組と、反時計回り用の第1の刃物31及び第2の刃物32の組とは、すべての刃先が略同一方向を向くように設けられる。

20

【0063】

つづいて、実施形態3の鼻毛処理器200について説明する。図12は、本発明の実施形態3に係る鼻毛処理器200を示す概略図である。

【0064】

刃部230について説明する。図13は、刃部230を図12のD-D線で切断した断面図であり、図14は、刃部230を構成する、(a)第1のホルダ233、(b)第2の刃物232、(c)スペーサ235、(d)第1の刃物231、(e)第2のホルダ234、を示す正面図及び側面図である。

【0065】

図13に示される刃部230は、第1の刃物231及び第2の刃物232とを保持する保持部として機能する、第1のホルダ233及び第2のホルダ234を有する。

30

【0066】

第1の刃物231及び第2の刃物232は、図14(b)又は(d)に示されるように、略矩形状の刃物面を有するものであり、両端が刃先となっている。つまり、第1の刃物231は、実施形態1の第1の刃物31が二つ、刃元側で接続されて、一つになったものに相当する。第1の刃物231には、後述する連結ピン233eが挿通される穴231aが形成されている。

【0067】

第2の刃物232は、実施形態1の第2の刃物32が二つ、刃元側で接続されて、一つになったものに相当する。第2の刃物232には、後述する連結ピン233eが挿通される穴232aが形成されている。

40

【0068】

よって、刃部230は、第1の刃物31及び第2の刃物32を仮想的に二組有するものである。

【0069】

第1のホルダ233は、図14(a)に示されるように、底板233aと、この底板233aに立設された側壁233bとで形成されている。側壁233bは、保護ガイド233cが両端部に形成されている。

【0070】

50

側壁 233b は、内側面に台座 233d を有する。台座 233d は、第 1 のホルダ 233 の内側面と第 2 の刃物 232 とを所定の間隔に設定するものである。さらに、この台座 233d には、連結ピン 233e が立設されている。

【0071】

第 2 のホルダ 234 は、図 14 (e) に示されるように、天板 234a と、この天板 234a に立設された側壁 234b とで形成されている。側壁 234b は、保護ガイド 234c が両端部に形成されている。

【0072】

側壁 234b は、内側面に台座 234d を有する。台座 234d は、第 2 のホルダ 234 の内側面と第 2 の刃物 232 とを所定の間隔に設定するものである。さらに、この台座 234d には、連結ピン 233e と対向する側壁 234b に、連結ピン 233e が挿通される穴 234e が形成されている。

【0073】

スペーサ 235 は、図 14 (c) に示されるように、第 1 の刃物 231 と第 2 の刃物 232 との間に挟持される板状のものである。スペーサ 235 は、略板状に形成されており、連結ピン 233e が挿通される穴 235a が形成されている。

【0074】

以上の各構成により、刃部 230 は、第 1 のホルダ 233、第 2 の刃物 232、スペーサ 235、第 1 の刃物 231、第 2 のホルダ 234 が、この順に組み立てられる (図 13 参照)。

【0075】

このとき、第 1 の刃物 231 及び第 2 の刃物 232 の刃先のうち、連結ピン 233e の左側の組が、軸線 CL の刃部 230 側から見て時計回り用となり、連結ピン 233e の右側の組が、軸線 CL の刃部 230 側から見て反時計回り用となる。そして、時計回り用の第 1 の刃物 231 及び第 2 の刃物 232 の組と、反時計回り用の第 1 の刃物 231 及び第 2 の刃物 232 の組とは、刃先が反対方向に向くように設けられる。

【0076】

つまり、刃部 230 は、第 1 の刃物 31 及び第 2 の刃物 32 の組を、仮想的に二組有し、各組が軸線 CL を含む平面 (あるいは、刃物面) と直交する平面 (実施形態 3 では、2 つの連結ピン 233e の中心を通る平面) に関して対称に設けられる。なお、刃部 230 は、左右幅が 8 mm 程度であり、高さが 5 mm 程度であるから (図 13 参照)、成人の鼻腔に挿入可能な大きさとなっている。

【0077】

以上のとおり、本発明の実施形態 2 及び 3 に係る鼻毛処理器 100, 200 では、刃部 130, 230 は、第 1 の刃物 31 及び第 2 の刃物 32 を二組有する。これにより、鼻毛処理器 100, 200 は、時計回り又は反時計回りのいずれの方向に回転させても、第 2 の刃物 32 が、回転方向の前方側に、第 1 の刃物 31 が、第 1 の刃物 31 の後方側に設けられるため、鼻毛の処理を良好に行うことができる。

【0078】

また、実施形態 1 では、時計回り又は反時計回りの一方向しか対応できないため、鼻毛処理器 1 を二つ準備する必要があったが、実施形態 2 及び 3 では、鼻毛処理器 100, 200 を一つ準備するだけでよく、どちらの方向でも使用することができる。さらに、実施形態 3 は、実施形態 2 よりも小型化することができる。

【0079】

なお、第 1 の刃物 31 及び第 2 の刃物 32 を二組有する態様は、実施形態 3 のような仮想的なものに限られない。例えば、第 1 のホルダ 233 の二つの連結ピン 233e を共用したり、第 1 のホルダ 233 に四つの連結ピン 233e を立設したりして、現実に第 1 の刃物 31 及び第 2 の刃物 32 を二組有するような態様でもよいが、実施形態 3 のような仮想的なものの方が、刃部 230 を小型化することができるため、好ましい。

【0080】

10

20

30

40

50

ここで、実施形態 2 又は 3 の変形例の鼻毛処理器 100, 200 について説明する。図 15 は、実施形態 2 又は 3 の変形例の使用状況を示す側面図であり、図 16 は、変形例の穴部 340 を示す、(a) 上面図、(b) E - E 線で切断した断面図、である。

【0081】

図 15 に示される変形例の鼻毛処理器 100, 200 は、刃部 130, 230 の軸線 CL の方向の一端側の先端に、穴部 340 を有する。この穴部 340 は、鼻腔の奥側から外鼻孔に向かって生える鼻毛を切断するものである。

【0082】

図 16 (a) に示されるように、穴部 340 は、第 1 のホルダ 133 の天板 133g 又は第 2 のホルダ 234 の天板 234a と断面形状が略同一の台形状で、略中央に引込み穴 340a が貫通して形成されている。この引込み穴 340a は、図 16 (b) に示されるように、一端側から他端 (天板 133g, 234a) 側に向かって、徐々に狭くなっており、他端では、略 C 字状になっている。そして、引込み穴 340a の他端付近には、第 3 の刃物 340b が設けられている。

【0083】

第 3 の刃物 340b の刃先は、台形の幅広側から幅狭側に向かい、かつ、天板 133g, 234a に傾斜して設けられている。

【0084】

そして、穴部 340 は、第 1 のホルダ 133 の天板 133g 又は第 2 のホルダ 234 の天板 234a に溶着や係合などにより一体化される。ただし、穴部 340 は、第 1 のホルダ 133 又は第 2 のホルダ 234 に一体成形されてもよく、この場合、天板 133g, 234a に引込み穴 340a が貫通して形成される。

【0085】

よって、穴部 340 を有する鼻毛処理器 100, 200 を、鼻腔に挿入すると、鼻腔の奥側から外鼻孔に向かって生える鼻毛は、引込み穴 340a に引込まれ、鼻毛処理器 100, 200 の回転 (移動) に伴って、第 3 の刃物 340b で、切断される。本変形例によれば、鼻腔内の粘膜に略直立して生える鼻毛だけでなく、奥側から外鼻孔に向かって生える鼻毛も、簡単に処理することができる。

【0086】

なお、上記実施形態 1 から 3 では、柄部 2 及び刃部 3, 130, 230 は、別部材で形成され一体化されたが、柄部 2 は、刃部 3, 130, 230 の第 1 のホルダ 33, 133, 233 とあらかじめ一体成形されてもよい。

【0087】

実施形態 4 の鼻毛処理器 400 について説明する。図 17 は、本発明の実施形態 4 に係る鼻毛処理器 400 を示す概略図であり、図 18 は、刃部 430 を図 17 の F - F 線で切断した断面図である。

【0088】

図 17 に示される鼻毛処理器 400 は、刃部 430 が、柄部 420 に対して枢動可能に取付けられる点で、実施形態 1 から 3 のものと異なっている。

【0089】

まず、柄部 420 について説明する。

柄部 420 は、本体が棒状のものであり、一端側の側面に軸線 CL と直交する枢動軸 420a が突設されている。また、柄部 420 は、後述する係止具 440 の脱落を防止する抜け止め 420b が他端側に膨出されている。

【0090】

つぎに、刃部 430 について説明する。図 19 は、刃部 430 を構成する、(a) 第 1 のホルダ 433、(b) 第 1 の刃物 31、(c) スペーサ 35、(d) 第 2 の刃物 32、(e) 第 2 のホルダ 434、を示す正面図及び側面図である。

【0091】

第 1 の刃物 31 及び第 2 の刃物 32 の構成や、第 1 の刃物 31 及び第 2 の刃物 32 を保

10

20

30

40

50

持する保持部の構成は、基本的に実施形態 1 と同様であるため、第 1 の刃物 3 1、第 2 の刃物 3 2 及びスペーサ 3 5 についての説明は省略する（図 1 9 (b) - (d) 参照）。

【 0 0 9 2 】

第 1 のホルダ 4 3 3 は、図 1 9 (a) に示されるように、底板 4 3 3 a と、この底板 4 3 3 a に立設された断面視 L 字状の側壁 4 3 3 b とで形成されている。一方の側壁 4 3 3 b は、保護ガイド 4 3 3 c が側方の端部に形成されている。他方の側壁 4 3 3 b は、第 2 のホルダ 4 3 4 の被係合部 4 3 4 f が係合する係合部 4 3 3 f が形成されている。

【 0 0 9 3 】

一方の側壁 4 3 3 b は、内側面に台座 4 3 3 d を有する。台座 4 3 3 d は、第 1 のホルダ 4 3 3 の内側面と第 1 の刃物 3 1 とを所定の間隔に設定するものである。さらに、この台座 4 3 3 d には、連結ピン 4 3 3 e が立設されている。

10

【 0 0 9 4 】

さらに、この一方の側壁 4 3 3 b は、外側面に軸受 4 3 3 g を有する。軸受 4 3 3 g は、柄部 4 2 0 の枢動軸 4 2 0 a を枢動可能に軸支する。なお、本実施形態 4 では、枢動軸 4 2 0 a は、柄部 4 2 0 に設けられ、軸受 4 3 3 g は、刃部 4 3 0 に設けられるが、軸支の構成であるから、それぞれ入れ替えて反対側に設けてもよい。

【 0 0 9 5 】

第 2 のホルダ 4 3 4 は、図 1 9 (e) に示されるように、天板 4 3 4 a と、この天板 4 3 4 a に立設された断面視 L 字状の側壁 4 3 4 b とで形成されている。一方の側壁 4 3 4 b には、保護ガイド 4 3 4 c が端部に形成されている。他方の側壁 4 3 4 b には、第 1 のホルダ 4 3 3 の係合部 4 3 3 f に係合する被係合部 4 3 4 f が端部に形成されている。

20

【 0 0 9 6 】

一方の側壁 4 3 4 b は、内側面に台座 4 3 4 d を有する。台座 4 3 4 d は、第 2 のホルダ 4 3 4 の内側面と第 2 の刃物 3 2 とを所定の間隔に設定するものである。さらに、この台座 4 3 4 d には、連結ピン 4 3 3 e が挿通される穴 4 3 4 e が形成されている。

【 0 0 9 7 】

そして、係止具 4 4 0 は、柄部 4 2 0 に挿通されている。この係止具 4 4 0 は、円筒又は円錐筒状のものであり、弾性又は可撓性を有する材料で形成されている。弾性又は可撓性を有する材料としては、ゴムやシリコンなどが挙げられる。

【 0 0 9 8 】

この係止具 4 4 0 は、刃部 4 3 0 のいずれか一方の端部を、筒状の内側に保持し、枢動軸 4 2 0 a に対して枢動する刃部 4 3 0 を係止するものであるが、鼻腔の内周に沿って微小に枢動（揺動）するように、刃部 4 3 0 を枢動可能な状態のまま用いる場合は、係止具 4 4 0 は、用いられてなくてもよい。すなわち、必要に応じて柄部 4 2 0 に取付けばよい。

30

【 0 0 9 9 】

刃部 4 3 0 を係止具 4 4 0 で係止する状態について説明する。図 2 0 は、鼻毛処理器 4 0 0 の、(a) 第 1 の状態、(b) 第 2 の状態、を示す概略図である。

第 1 の刃物 3 1 及び第 2 の刃物 3 2 の刃物面が、軸線 C L を含む平面と平行になるように、刃部 4 3 0 が柄部 4 2 0 に対して枢動されると、係止具 4 4 0 により、その位置で係止される。例えば、刃部 4 3 0 を時計回りに枢動して第 1 の状態に係止すると（図 2 0 (a) 参照）、第 1 の刃物 3 1 が第 2 の刃物 3 2 よりも左側となるため、反時計回り用とすることができ、反対に刃部 4 3 0 を時計回りに枢動して第 2 の状態に係止すると（図 2 0 (b) 参照）、第 1 の刃物 3 1 が第 2 の刃物 3 2 よりも右側となるため、時計回り用とすることができる。なお、鼻毛処理器 4 0 0 は、柄部 4 2 0 及び刃部 4 3 0 を含む総幅が 8 mm 程度であり（図 2 0 (a) 参照）、枢動軸 4 2 0 a に沿う方向の厚みが 1 0 mm 程度であるから、成人の鼻腔に挿入可能な大きさとなっており、枢動軸 4 2 0 a も鼻腔に挿入することで、奥の方まで鼻毛の処理を行うことができる。

40

【 0 1 0 0 】

実施形態 5 の鼻毛処理器 5 0 0 について説明する。図 2 1 は、本発明の実施形態 5 に係

50

る鼻毛処理器 500 を示す概略図である。図 22 は、刃部 530 の可動範囲を示す説明図である。

【0101】

図 21 に示される鼻毛処理器 500 は、枢動軸 520 a が、柄部 520 の一端側の端面に位置する点で、実施形態 4 のものと異なっている。

【0102】

柄部 520 は、本体が棒状のものであり、軸線 C L と直交する枢動軸 520 a を軸支する軸受 520 g が一端側の端面に設けられている。

【0103】

刃部 530 は、軸線 C L と直交する枢動軸 520 a を軸支する軸受 533 g が柄部 520 側の外面に設けられている。そして、枢動軸 520 a は、これらの軸受 520 g 及び軸受 533 g に軸支され、柄部 520 と刃部 530 とを枢動可能に連結している。

【0104】

刃部 530 の枢動する角度 は、枢動軸 520 a から刃部 530 の底面までの距離を調節することで適宜変更可能であるが、柄部 520 の軸線 C L を中心として左右それぞれに 90° から 120° の範囲、つまり、180° から 240° の範囲で枢動すればよい。

【0105】

このような鼻毛処理器 500 であれば、枢動軸 520 a に沿う方向の厚みを 9 mm 程度にすることができるから、鼻腔に挿入可能な大きさにすることができる。

【0106】

実施形態 6 の鼻毛処理器 600 について説明する。図 23 は、本発明の実施形態 6 に係る鼻毛処理器 600 を示す概略図である。

図 23 に示される鼻毛処理器 600 は、実施形態 5 の刃部 530 を、実施形態 3 の刃部 330 に置換したものに略一致する。

【0107】

柄部 620 は、本体が棒状のものであり、軸線 C L と直交する枢動軸 620 a を軸支する軸受 620 g が一端側の端面に設けられている。軸受 620 g の更に一端側には、刃部 630 の枢動を規制するストッパ 620 h が形成されている。

【0108】

刃部 630 は、軸線 C L と直交する枢動軸 620 a を軸支する軸受 633 g が柄部 620 側の外面に設けられている。そして、枢動軸 620 a は、これらの軸受 620 g 及び軸受 633 g に軸支され、柄部 620 と刃部 630 とを枢動可能に連結している。

【0109】

刃部 630 の枢動する角度 は、枢動軸 620 a から刃部 630 の底面までの距離を調節することで適宜変更可能であるが、ストッパ 620 h と柄部 620 の本体で枢動が規制されるため、軸線 C L と平行な位置から、±10° 程度の範囲で枢動すればよい。

【0110】

このような鼻毛処理器 600 であれば、第 1 の刃物 231 及び第 2 の刃物 232 の長さを 13 mm 程度に、刃部 630 の枢動軸 620 a に沿う方向の厚みを 7 mm 程度に、刃部 630 の高さを 5 mm 程度に、刃部 630 の先端から柄部 620 の背面までの総幅を 9 mm 程度にすることができるから、鼻腔に挿入可能な大きさにすることができる。

【0111】

実施形態 4 及び 5 では、時計回り用又は反時計回り用とで、枢動させる方向が一義的に決まるため、枢動させる方向を間違えるとやり直す必要があったが、実施形態 6 の鼻毛処理器 600 であれば、時計回り用又は反時計回り用の回転方向を気にすることなく、どちらかの一方に枢動させることで、鼻毛を処理することができる。また、刃部 630 の枢動範囲が狭いため、鼻腔から鼻毛処理器 600 を引抜く場合でも、引っ掛かるようなことが起こらない。

【0112】

以上のとおり、本発明の実施形態 4 から 6 に係る鼻毛処理器 400, 500, 600 で

10

20

30

40

50

は、刃部 4 3 0 , 5 3 0 , 6 3 0 は、軸線 C L と直交する枢動軸 4 2 0 a , 5 2 0 a , 6 2 0 a に対して枢動可能に柄部 4 2 0 , 5 2 0 , 6 2 0 に取付けられる。これにより、鼻毛処理器 4 0 0 , 5 0 0 は、時計回り又は反時計回りのいずれの方向に回転させる場合でも、第 2 の刃物 3 2 が回転方向の前方側に、第 1 の刃物 3 1 が回転方向の後方側に位置するように変更することができるため、鼻毛の処理を良好に行うことができる。

【 0 1 1 3 】

また、実施形態 1 では、時計回り又は反時計回りの一方向しか対応できないため、鼻毛処理器 1 を二つ準備する必要があったが、実施形態 4 から 6 では、鼻毛処理器 4 0 0 , 5 0 0 , 6 0 0 を一つ準備するだけでよく、どちらの方向でも使用することができる。

【 0 1 1 4 】

さらに、鼻毛処理器 4 0 0 は、係止具 4 4 0 を、更に備え、係止具 4 4 0 は、柄部 4 2 0 に対して枢動する刃部 4 3 0 を所定角度に係止する。これにより、刃部 4 3 0 が柄部 4 2 0 に対してガタつくことがなく、鼻毛処理器 4 0 0 を容易に移動させることができる。

【 0 1 1 5 】

なお、実施形態 4 では、第 1 の刃物 3 1 が枢動軸 4 2 0 a に近い側に設けられたが、逆に、実施形態 5 のように、第 2 の刃物 3 2 が枢動軸 4 2 0 a に近い側に設けられてもよい。

また、係止具 4 4 0 は、実施形態 4 のものに限られない。例えば、磁力により所定の位置に係止（固定）できるものであってもよく、枢動軸 4 2 0 a と軸受 4 3 3 g との間で、ノッチ及び突起により係止するものであってもよい。

【 0 1 1 6 】

最後に、他の変形形態について説明する。

上記実施形態 1 から 6 では、刃部 3 , 1 3 0 , 2 3 0 , 4 3 0 , 5 3 0 , 6 3 0 は、第 1 の刃物 3 1 , 2 3 1 及び第 2 の刃物 3 2 , 2 3 2 を有する二枚刃としたが、いわゆる三枚刃、四枚刃あるいは五枚刃以上であってもよく、その際、刃の枚数に合わせてスペーサ 3 5 , 1 3 5 , 2 3 5 の枚数も変更される。これにより、鼻毛に対する刃部 3 , 1 3 0 , 2 3 0 , 4 3 0 , 5 3 0 , 6 3 0 の切れ味を向上させることができる。

【 0 1 1 7 】

また、上記実施形態 2 から 3 では、刃部 1 3 0 , 2 3 0 は、第 1 の刃物 3 1 , 2 3 1 及び第 2 の刃物 3 2 , 2 3 2 を有する二枚刃としたが、逆に、第 1 の刃物 3 1 , 2 3 1 のみのも一枚刃としてもよい。すなわち、刃部 1 3 0 は、軸線を含む平面又は中間ホルダ 1 3 6 に関して対称な位置に少なくとも第 1 の刃物 3 1 をそれぞれ有し、刃部 2 3 0 は、軸線を含む平面又 2 つの連結ピン 2 3 3 e を含む平面に関して対称な位置に第 1 の刃物 3 1 の刃先をそれぞれ有する。これにより、特許文献 1 にみられる鼻毛用カミソリでは、鼻毛を剃るための回転方向は、一方向に限られたが、変形形態の鼻毛処理器では、1 枚刃であっても、どちらの回転方向にも対応することができる。

【 0 1 1 8 】

言い換えると、この変形形態の鼻毛処理器は、柄部と刃部とを備えるもの鼻毛処理器であって、柄部は、刃部が軸線の一端側に取付けられ、刃部は、軸線を含む平面と平行な刃物面を有する少なくとも 1 枚の刃物と、刃物を保持する保持部と、を有し、刃部は、軸線を含む平面に関して対称な位置に刃物をそれぞれ有する。

【 0 1 1 9 】

また、上記実施形態 4 では、刃部 4 3 0 は、第 1 の刃物 3 1 及び第 2 の刃物 3 2 を有する二枚刃としたが、逆に、第 1 の刃物 3 1 のみのも一枚刃としてもよい。言い換えると、この変形形態の鼻毛処理器は、柄部と刃部とを備えるものであって、刃部は、少なくとも 1 枚の刃物と、刃物を保持する保持部と、を有するとともに、柄部の軸線と直交する軸に対して枢動可能に柄部を取付けられる。

【 0 1 2 0 】

また、上記実施形態 1 から 6 及び変形例に記載した各構成は、複数組み合わせてもよい。

10

20

30

40

50

【 0 1 2 1 】

以上、本発明の好ましい実施形態について詳述したが、本発明は上述した実施形態に限定されるものではなく、特許請求の範囲に記載された本発明の要旨の範囲内において、種々の変形、変更が可能である。

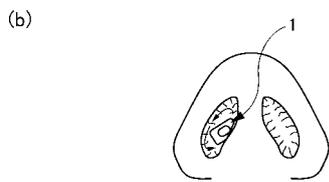
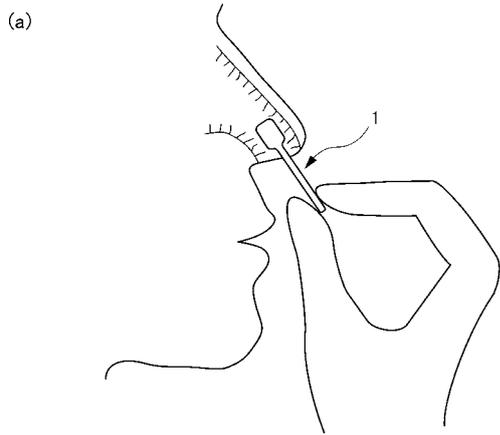
【 符号の説明 】

【 0 1 2 2 】

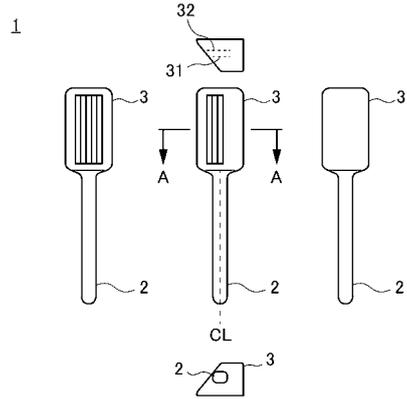
| | | |
|-------|---|----|
| 1 | 鼻毛処理器 | |
| 2 | 柄部 | |
| 3 | 刃部 | |
| 3 1 | 第 1 の刃物、3 1 a 穴 | 10 |
| 3 2 | 第 2 の刃物、3 2 a 穴 | |
| 3 3 | 第 1 のホルダ（保持部）、3 3 a 底板、3 3 b 側壁、3 3 c 保護ガイド、 | |
| 3 3 d | 台座、3 3 e 連結ピン、3 3 f 係合部 | |
| 3 4 | 第 2 のホルダ（保持部）、3 4 a 天板、3 4 b 側壁、3 4 c 保護ガイド、 | |
| 3 4 d | 台座、3 4 e 穴、3 4 f 被係合部 | |
| 3 5 | スペーサ、3 5 a 穴 | |
| 1 0 0 | 鼻毛処理器 | |
| 1 3 0 | 刃部 | |
| 1 3 3 | 第 1 のホルダ（保持部）、1 3 3 a 底板、1 3 3 b 側壁、1 3 3 c 保護ガイド、1 3 3 d 台座、1 3 3 e 穴、1 3 3 f 支持穴、1 3 3 g 天板、1 3 3 h | 20 |
| 仮受台 | | |
| 1 3 4 | 第 2 のホルダ（保持部）、1 3 4 b 側壁、1 3 4 c 保護ガイド、1 3 4 d 台座、1 3 4 e 連結ピン、1 3 4 f 係止爪、1 3 4 h 切欠 | |
| 1 3 5 | スペーサ、1 3 5 a 穴、1 3 5 b 脚 | |
| 1 3 6 | 中間ホルダ、1 3 6 c 保護ガイド、1 3 6 d 台座、1 3 6 e 穴 | |
| 1 4 0 | 仮固定用の連結ピン | |
| 2 0 0 | 鼻毛処理器 | |
| 2 3 0 | 刃部 | |
| 2 3 1 | 第 1 の刃物、2 3 1 a 穴 | |
| 2 3 2 | 第 2 の刃物、2 3 2 a 穴 | 30 |
| 2 3 3 | 第 1 のホルダ（保持部）、2 3 3 a 底板、2 3 3 b 側壁、2 3 3 c 保護ガイド、2 3 3 d 台座、2 3 3 e 連結ピン | |
| 2 3 4 | 第 2 のホルダ（保持部）、2 3 4 a 天板、2 3 4 b 側壁、2 3 4 c 保護ガイド、2 3 4 d 台座、2 3 4 e 穴 | |
| 2 3 5 | スペーサ、2 3 5 a 穴 | |
| 3 4 0 | 穴部、3 4 0 a 引込み穴、3 4 0 b 第 3 の刃物 | |
| 4 0 0 | 鼻毛処理器 | |
| 4 2 0 | 柄部、4 2 0 a 枢動軸、4 2 0 b 抜け止め | |
| 4 3 0 | 刃部 | |
| 4 3 3 | 第 1 のホルダ（保持部）、4 3 3 a 底板、4 3 3 b 側壁、4 3 3 c 保護ガイド、4 3 3 d 台座、4 3 3 e 連結ピン、4 3 3 f 係合部、4 3 3 g 軸受 | 40 |
| 4 3 4 | 第 2 のホルダ（保持部）、4 3 4 a 天板、4 3 4 b 側壁、4 3 4 c 保護ガイド、4 3 4 d 台座、4 3 4 e 穴、4 3 4 f 被係合部 | |
| 4 4 0 | 係止具 | |
| 5 0 0 | 鼻毛処理器 | |
| 5 2 0 | 柄部、5 2 0 a 枢動軸、5 2 0 g 軸受 | |
| 5 3 0 | 刃部、5 3 3 g 軸受 | |
| 6 0 0 | 鼻毛処理器 | |
| 6 2 0 | 柄部、6 2 0 a 枢動軸、6 2 0 g 軸受、6 2 0 h ストップ | |
| 6 3 0 | 刃部、6 3 3 g 軸受 | 50 |

C L 軸線
L 基準線

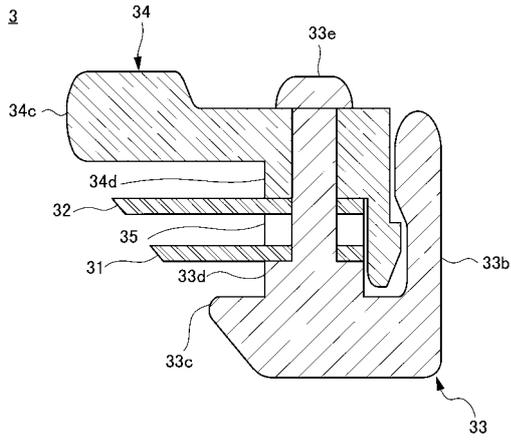
【圖 1】



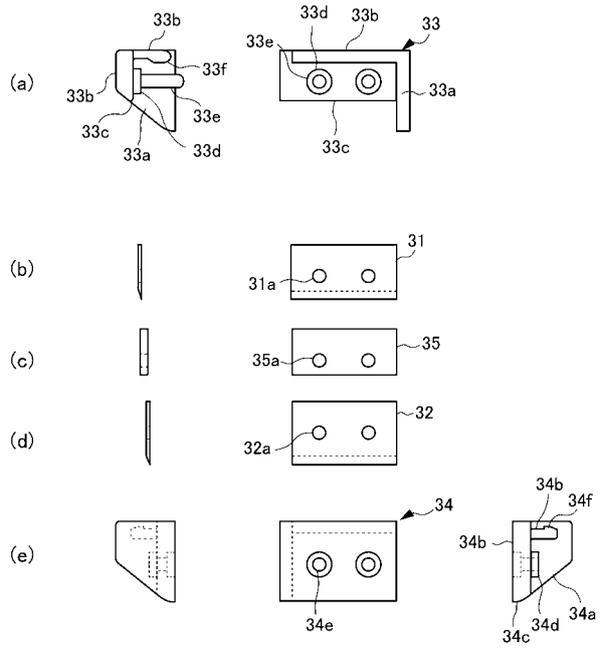
【圖 2】



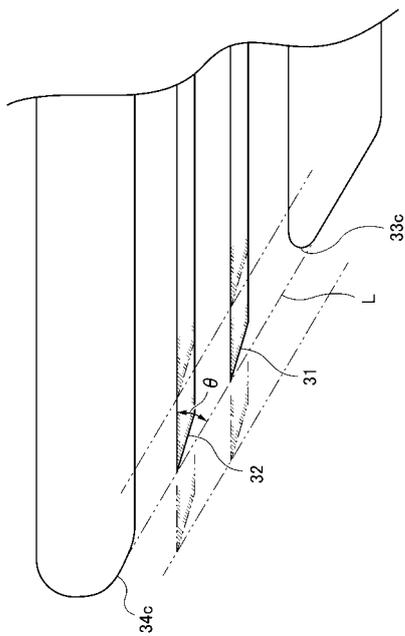
【 図 3 】



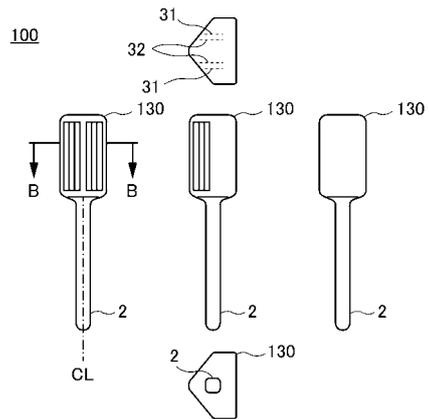
【 図 4 】



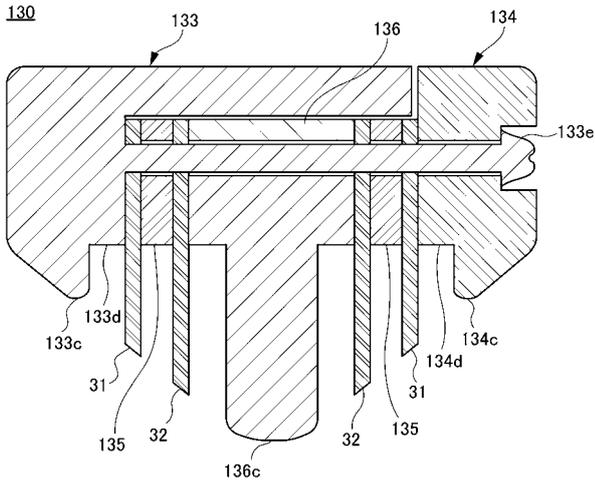
【 図 5 】



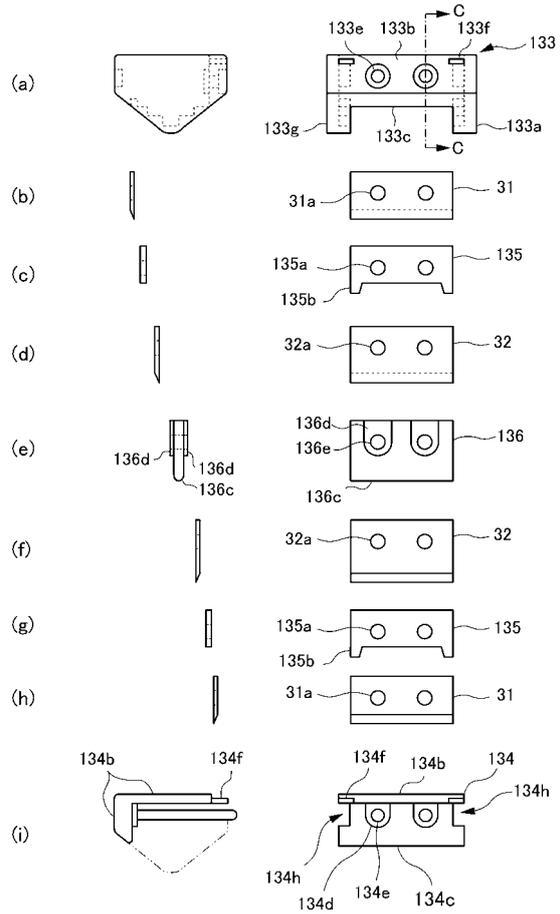
【 図 6 】



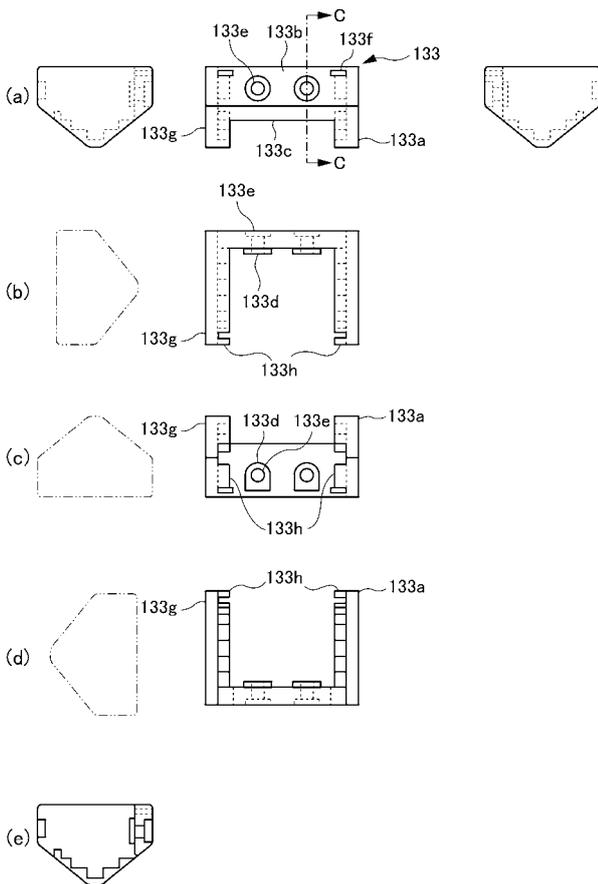
【 図 7 】



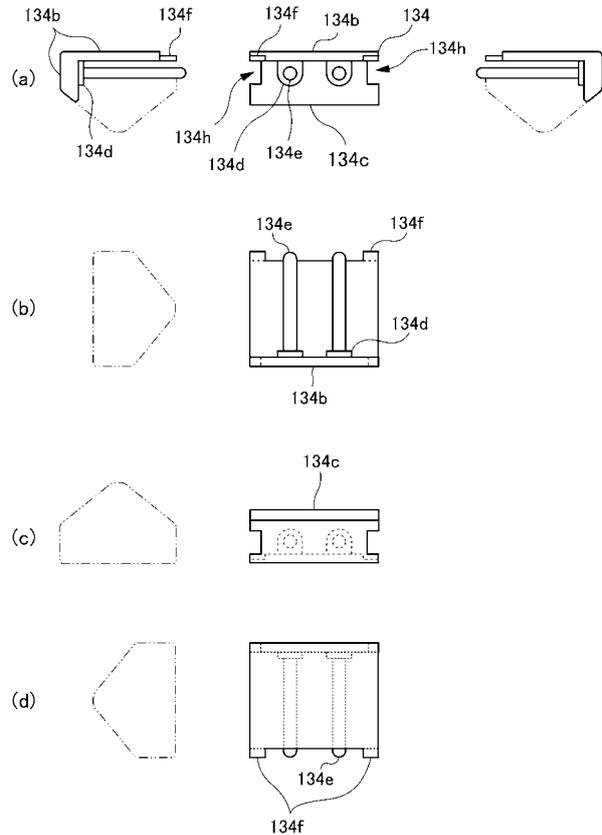
【 図 8 】



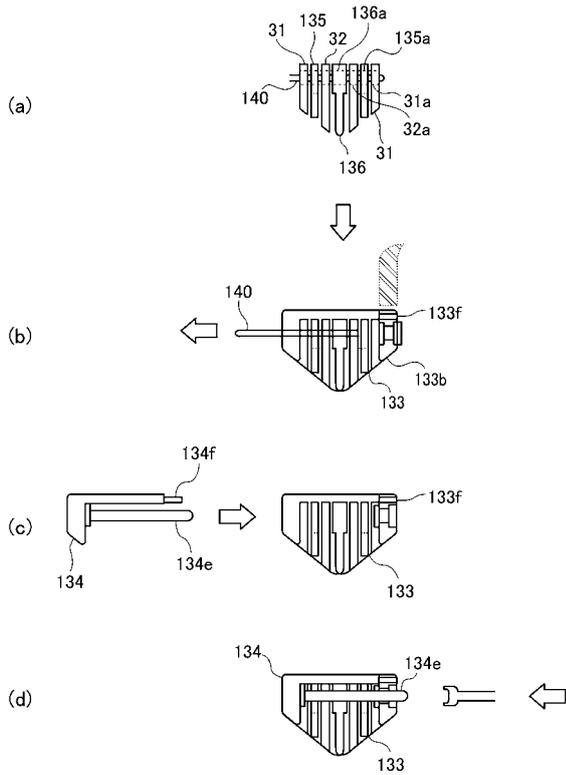
【 図 9 】



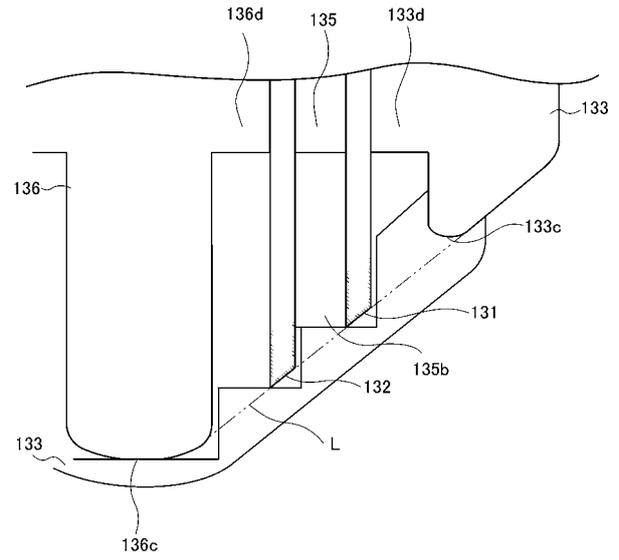
【 図 10 】



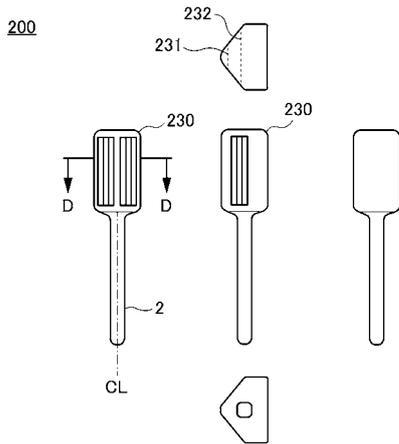
【 図 1 1 A 】



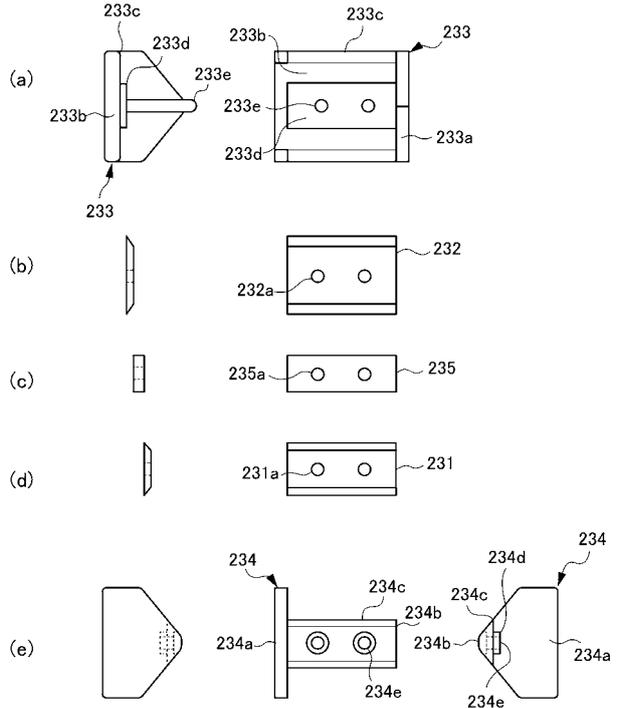
【 図 1 1 B 】



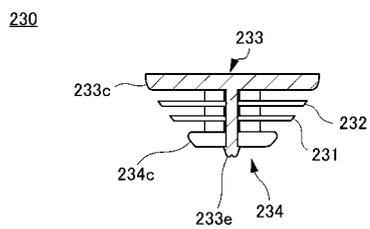
【 図 1 2 】



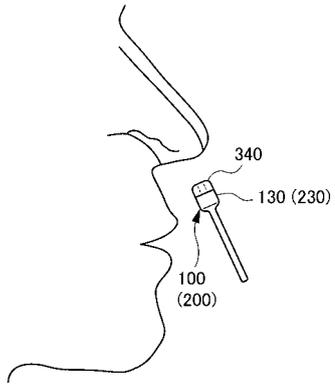
【 図 1 4 】



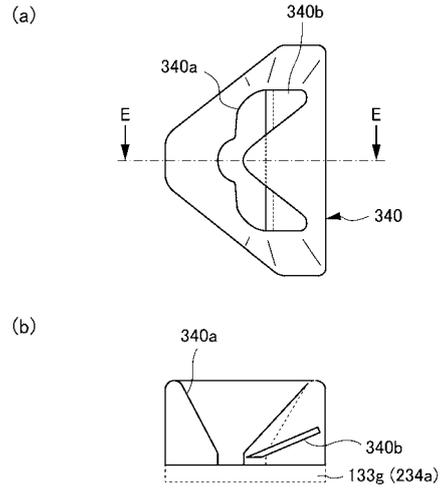
【 図 1 3 】



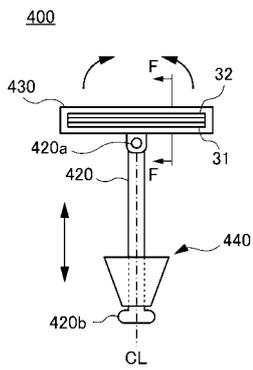
【 図 1 5 】



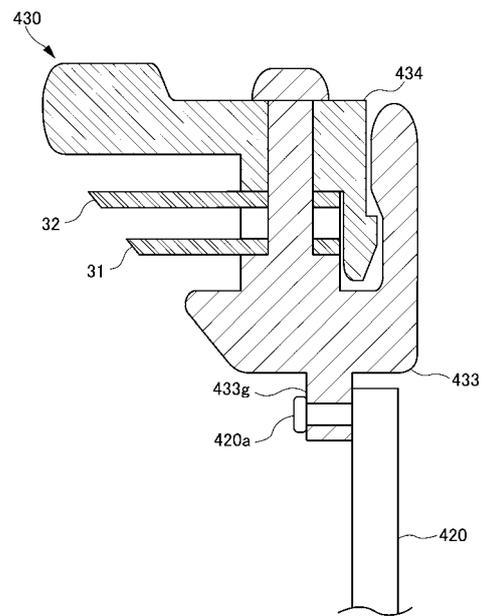
【 図 1 6 】



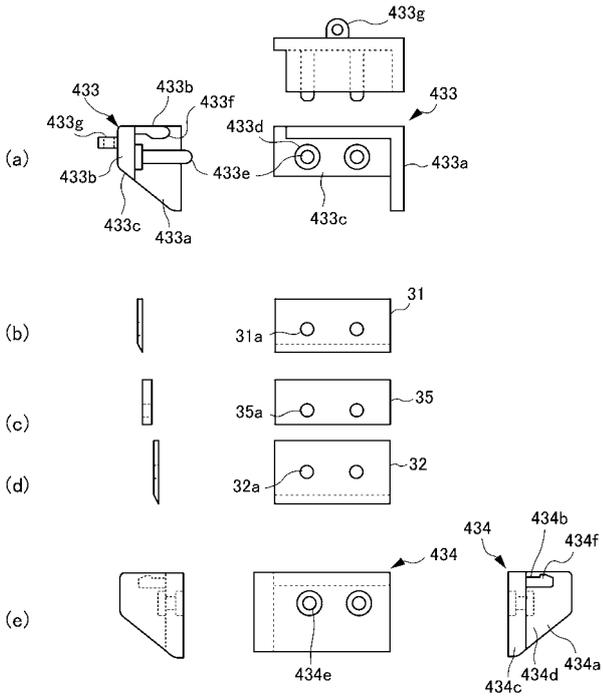
【 図 1 7 】



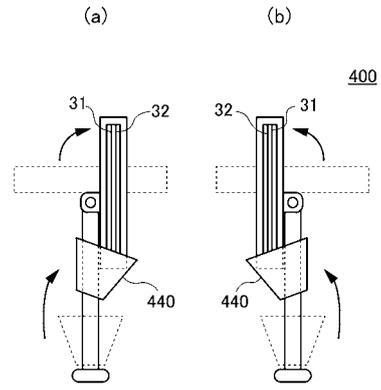
【 図 1 8 】



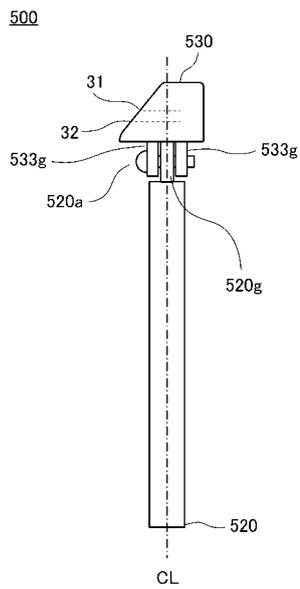
【 図 1 9 】



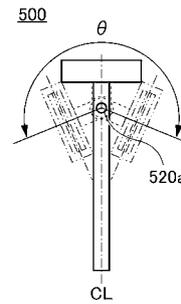
【 図 2 0 】



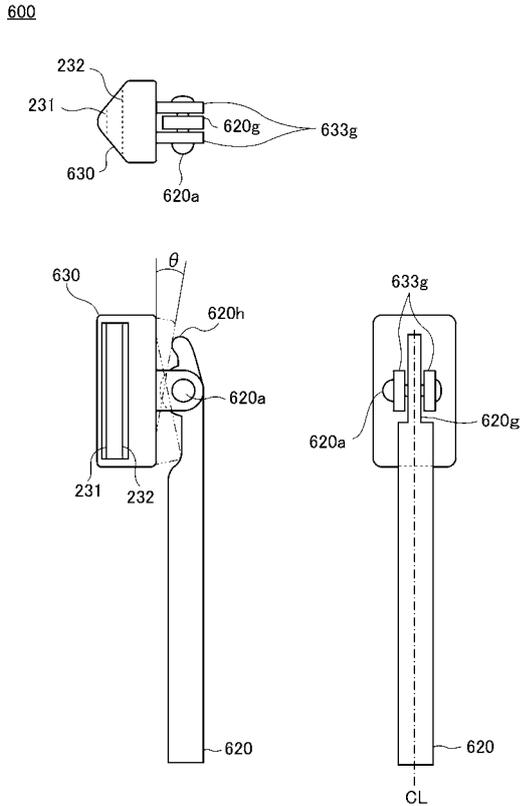
【 図 2 1 】



【 図 2 2 】



【図 2 3】



【手続補正書】

【提出日】平成29年8月15日(2017.8.15)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

柄部と、前記柄部の軸線の一端側に取り付けられた刃部とを備える鼻毛処理器であって

前記刃部は、平行な刃物面を有し、所定間隔で平行に設けられた第 1 の刃物及び第 2 の刃物と、

前記第 1 の刃物及び前記第 2 の刃物を保持する保持部と、を有し、

前記保持部は、前記第 1 の刃物及び前記第 2 の刃物を挟んだ両側に保護ガイドが形成され、

前記柄部は、前記軸線と直交する軸線を有する枢動軸に対して枢動可能に前記刃部が取り付けられるとともに、前記軸線の一端側に前記刃部の枢動を規制するストッパが形成されており、

前記枢動軸の方向から見て、前記第 1 の刃物及び前記第 2 の刃物の刃先が前記軸線と平行な位置から、 $\pm 10^\circ$ の範囲で枢動する

ことを特徴とする鼻毛処理器。

【請求項 2】

前記刃物面と直交する方向から見た場合、前記第 1 の刃物の刃先は、前記第 2 の刃物の刃先とは異なる位置である

ことを特徴とする請求項 1 に記載の鼻毛処理器。

【請求項 3】

前記刃部は、前記第 1 の刃物及び前記第 2 の刃物の組を、二組有するとともに、各組は前記軸線を含む前記平面に関して対称に設けられる

ことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の鼻毛処理器。

【請求項 4】

前記刃部は、前記第 1 の刃物及び前記第 2 の刃物の組を、二組有するとともに、各組は前記軸線を含む前記平面と直交する平面に関して対称に設けられる

ことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の鼻毛処理器。

【請求項 5】

前記刃部は、前記軸線の方法の前記一端側の先端に穴部を有し、

前記穴部は、第 3 の刃物を有する

ことを特徴とする請求項 1 から 4 までのいずれか 1 項に記載の鼻毛処理器。

【請求項 6】

前記刃部は、前記第 1 の刃物及び前記第 2 の刃物を有する二枚刃以上である

ことを特徴とする請求項 1 から 5 までのいずれか 1 項に記載の鼻毛処理器。